

会議録

会議の名称	令和元年度 第3回西東京市地域公共交通会議
開催日時	令和元年11月14日（木）午後3時から午後5時まで
開催場所	西東京市役所防災センター6階講座室1
出席者	<p>【委員】松本委員（会長：まちづくり担当部長）、稲垣委員、関根委員、新見委員、町田委員、依田委員、堀越委員（代理 石川様）、植木委員、磨田委員、島田委員、滝沢委員</p> <p>【事務局】長塚都市計画課長、坂本主査、鈴木主任、中村主事、梶木主事、山倉主事</p>
議題	はなバスの改善策の検討について
報告	移動支援の実証実験の結果報告と今後の対応について
会議資料の名称	<p>《説明資料》</p> <p>資料1 はなバスの改善策の検討について</p> <p>資料2 移動支援の実証実験の結果報告と今後の対応</p> <p>参考資料1 移動支援の実証実験利用状況等の分析</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>○会長： 会議開催にあたり、西東京市地域公共交通会議設置要綱第6第2項に規定する定足数、委員の過半数を満たしていることを報告する。なお、本日、小河委員は、所用のため欠席である。関東運輸局の堀越委員の代わりに東京支局の石川様に代理出席いただいている。</p> <p>議事に先立ち、会議の公開についてお諮りする。当会議は、西東京市地域公共交通会議設置要綱第7の規定により、会議録も含め、原則公開となっている。公開でよろしいか。</p> <p>～全員賛成～</p> <p>○会長： それでは、本日の会議については原則どおり公開とする。</p> <p>～傍聴人あり～</p> <p>2 議事</p> <p>議題 はなバスの改善策の検討について</p> <p>○会長： はなバスの改善策の検討について、事務局より説明を求める。</p> <p>○事務局： 資料1により、「はなバスの改善策の検討について」を説明。</p> <p>○会長： 前回の会議を踏まえ、事務局より、正月ダイヤの導入やダイヤ改正に向けた提案、行政主体ではなく利用者や地域の意向を聴取し、改善していきたいという説明があったが、質問、意見があれば発言願いたい。</p>	

- 委員： 各ルートの実質的な運行台数は何台か。
- 事務局： 第1ルートは3台で運行しており、そのうち1台は予備車、第2・3ルートは7台で運行しており、そのうち1台は予備車、第4南北ルートは各ルート2台ずつで運行しており、共有の予備車が1台の合計15台である。
- 委員： 単純な利用者だけではなく、例えば運転手の認識となるが、利用者の服装の傾向を把握し、運行時間帯を考えてはいかがか。
- 事務局： 運転手へのヒアリングなどバス事業者との調整が必要となるが、利用者数の客観的な数字だけではなく、いただいたご意見のような別の視点も参考にしながら検討していきたい。
- 委員： 地域住民がはなバスではなく路線バスを利用しているのであれば、行先が異なる、時間帯が合わないなどの何かしらの理由があるはずであり、そのようなデータを取るために、アンケートを行うことが必要である。また、はなバスだけではなく西東京市内を運行している路線バスで、ICカードなどで利用者の時間帯などを把握しているのであれば、開示できる範囲内でそのデータを市に提供していただき、今後のはなバスのダイヤ改正の参考にできないか。
- 2点目として、台風の時にはなバスは運休となったが、はなバスの運休に関する基準を作るのはいかがか。休日に台風が来た場合には、市役所に問い合わせても職員はいないため、バス事業者に対する権限委譲などの何かしらの仕組みが必要である。
- 3点目として、経費削減の減便だけではなく、イベント時に予備車を使用し、増便することは可能なのか。
- 事務局： データの取扱いについては、バス事業者と調整したうえで、先ほどの運転手の認識などの様々なデータも含めて共有し、検討していきたい。
- 今年の台風第19号では、事前にホームページで周知を行っており、運休の判断については路線バスに追従する考え方である。
- 増便については、予備車を運行台数に含めると、不測の事態に対応できない場合があるので、現状の運行台数の中で検討する必要がある。
- 委員： 予備車3台の運転手の人数が確保できれば、3台のうち2台を活用してイベント時の臨時便に充てることのできるのではないか。それを利用した人が、はなバスは便利だという印象を持ってくれば良い。
- 事務局： イベントのタイミングなどもあるので、どこまで活用できるか分からないが、検討していきたい。
- 委員： 商業施設や病院などの送迎バスがあるが、そのようなデータを参考にできないのか。

- 事務局： 商業施設や病院などの送迎バスは、駅と施設の2点を結ぶ経路であることから、はなバスのダイヤ編成の参考としては考えていないが、必要に応じて調査したいと考えている。
- 委員： 例えば、花小金井駅から田無ファミリーランドまでの区間は、はなバスと田無ファミリーランドが運行している無料送迎バスがあり、後者に関しては平日の昼間でも5人ほど乗っていることから、利用者がそちらに流れている可能性がある。西原町4丁目（田無ファミリーランド）停留所がパチンコ店の正面に位置しているため、子供が利用する場合を考えて、環境的に配慮した方がよい。
- 事務局： 西原町4丁目（田無ファミリーランド）停留所について、施工中である都市計画道路が完成した際には、現在のパチンコ店の正面から都市計画道路上に移設する予定である。
- 委員： 市民への周知として、先日開催された市民まつりではなバス展示の入場待ちの際に配布していた折り紙の裏面に、各ルートの利用者一人当たりの公費負担額が記載されていたが、市民の皆さんに危機感を持っていただくためにも、市民一人当たりの負担額の方が良いと思う。他にも、ルート沿線の人が何回乗車すれば維持できるかといった、分かりやすい観点があると良い。
- 事務局： 今後、どのような視点が皆様に理解されやすいのか、検討していく。
- 委員： ダイヤ改正について確認となるが、市がダイヤ案を作成しバス事業者が運転手などを調整するのか。それとも、市はダイヤ改正の方向性だけ示してバス事業者がダイヤ案を作成するのか。
- 事務局： はなバスは、市のコミュニティバスであることから、市はダイヤ改正の方向性についてバス事業者に指示し、バス事業者は運転手の運用などからダイヤを提案していただくといった関係となる。なお、最終的には、市が決定する。
- 会長： 今回の提案である正月ダイヤの導入について、地域公共交通会議での位置づけについて、事務局に説明を求める。
- 事務局： 正月ダイヤの導入については、地域公共交通会議で同意をいただく必要はないが、今までの経緯を鑑み、ダイヤ改正は慎重に行うべきであるという考えから報告させていただいた。また、正月ダイヤは特別な日の運行となるが、今後は実績を踏まえ、ダイヤ改正の資料になると考えている。
- 委員： バス事業者としては、社内の働き方改革などの状況により運転手の確保が難しいことから、正月ダイヤの導入は肯定的に捉えている。北多摩地域の路線バスでは、平日の利用者を100%とすると、土曜日は85%、休日は

70%の比率となっており、第1ルートの実績は路線バスの比率と合致している。正月ダイヤの内容については、利用実績を踏まえ市と協議している状況である。

また、市とバス事業者の関係だが、コミュニティバスのルートはある程度まで市の方で決めるが、運行間隔や車両の総数などについては、双方で協議したうえで、最終的に市が判断するが事業者としても意見を述べている。

さらに、無料バスについては、過疎地域であれば、学校や会社等の送迎バスを活用しないと賄いきれないが、西東京市に関しては、鉄道や路線バス等の公共交通が充実しており、運賃の支払い有無に関しては、公共交通から切り離して考えるべきである。

最後に台風等による計画運休に関しては、市の上承のうえで、バス事業者が路線バスと同様に、安全性重視の考えで判断している。

○委員： 路線バスも土休日ダイヤを採用していることから、特に問題はないと考えている。路線バスの年末年始の利用状況としては、大晦日の夜及び元旦は、他の日に比べ特に利用者が少なくなっている。台風等による運休については、バスの運転手は電車通勤が多いことから、鉄道に合わせた運行になる。

○会長： 正月ダイヤの実施について他に意見や質問はあるか。他に無いようであれば、正月ダイヤ実施後のフォローアップを行い、次回の地域公共交通会議で結果の報告をお願いする。

次に、事務局からははなバスの改善策について説明があったが、進め方に関する意見や補足等があればお願いしたい。

○委員： はなバスは、福祉的な面からも注目されていると説明にあったが、高齢者や子育てに関する部署との連携はどのように考えているのか。

また、市の上位計画がいくつかある中で、交通分野で担える部分について、短中長期的に整理する必要がある。

○事務局： 移動支援事業と同様に、福祉関係の部署から意見をもらいながら検討していきたい。

○委員： 他自治体でも、道路状況を理由にバスの運行ができないというケースはよくある。上位計画の中で、交通が充実したらより良くなるなどの説明ができるのであれば、関連する部署に積極的に動いてもらうこともできるのではないか。

○委員： 事務局内で地域に対しての参画について、どのようなビジョンがあるのか。意見交換会やアンケートで、どのような内容を聞いて、改善策に活かしていくのか決まっているのであれば教えてほしい。ルートやダイヤを変えるとといった物理的な条件を検討していくことは、重要であると考えているが、課題区間については、利用促進の面では既に限界であると考えてお

り、物理的な条件を変更する以外の考え方について整理する必要がある。

○事務局： 意見交換会やアンケートでは、沿線住民や未利用者の方にはなバスの課題について意見をもらい、今後の利用促進に活かしていきたいと考えている。物理的な条件を変更する以外の考え方については、事務局では整理できていないことから、手法などに関して皆様から意見をいただきたい。

○委員： はなバスは、公共交通として駅や市役所等の公共施設を結んでいることから、地域ではなく公共施設の利用者に対し、来訪手段を聞いた方が良いと考える。

○事務局： 昨年度、乗降調査とともに実施した市民アンケート調査では、参考になる部分もあるが、個人的な利用方法についてご意見をいただくことから、その点に特化して改善策を講じることはできないため、色々な方からご意見を聞いて改善策に繋げていきたいと考えている。その中で、公共施設の来訪者を対象としたヒアリング調査も手法の一つとして検討していきたい。

○委員： 正月ダイヤの導入は、過去の実績から利用者が少ないことが明白であることから経費削減を目的としている。一方、土休日ダイヤの導入は、運行本数が少し減ったとしてもパターンダイヤやラウンドダイヤが良いのか、早朝及び夜遅くに利用したいかなどの利便性に関する意見を踏まえるのであれば、利用促進にも繋がることから、正月ダイヤの利用実績は土休日ダイヤの参考とならないと考えている。

○委員： 先ほどの意見について、市内の他部署との連携は重要であると認識している。はなバスを福祉的な位置づけで考えていくのであれば、地域に福祉的要素として認識してもらう必要がある。はなバスが地域内の高齢者や障害者の方の移動手段として、市の補助金を使っても運行を維持する必要があると考えるのであれば、地域が運行を支えるために何ができるのかを考えてもらう必要がある。今後は、市内の他部署と横断的に考えていく必要がある。

○事務局： 地域との連携及び市内の他部署との横断的な調整について、今後、検討する。

○会長： 次回までに今回いただいた意見を踏まえ、具体的な内容について議論できるよう願います。議題「はなバスの改善策の検討について」は以上とする。

報告事項 移動支援の実証実験の結果報告と今後の対応について

○会長： 報告事項「移動支援の実証実験の結果報告と今後の対応について」事務局に報告を求める。

- 事務局： 資料2により、「移動支援の実証実験の結果報告と今後の対応について」を報告。
- 会長： 事務局からの報告について、質問、意見があれば発言願いたい。
- 委員： 先ほど指摘した地域で支えてもらうという点では、実践例となる。今回は、利用の実績が芳しくないため、何が良くなかったのか振り返る必要がある。また、今回は時間的な制約があり、運行形態や車両を決め、早く実現する必要があったため、昨年度に議論した地域コミュニティの力や利用促進策が活かされていない。今回の実験により運行形態について把握したため、今後どのような形で地域の人を取り込んでいくかを議論すべきである。
- 委員： 当初の予定より、運行期間が2週間短くなった理由は何か。
- 事務局： 今回の実験では、タクシー車両を借り上げて行ったが、当初の想定より利用者が少なく収入が下回ったことから、予算の都合により早めに運行を終了した。
- 委員： 運行を開始した6月は乗車累計が0人という日は多かったが、9月になると乗車累計が0人という日が少ないことから、周知不足ではなかったのか。次回、実験を行うのであれば、3か月ほど前から周知をすべきであると考え。ビジネスとしては、公共交通空白地域・不便地域の実証実験で10分に1本運行していることは、最先端であると考えている。
- 委員： 周知について、地域の方が集会所等に集まって、移動支援事業について話し合っていることが記載されたチラシが、当初、対象地域の全域に配布されていなかった。このことについては、大いに反省すべきであり、今後は対象地域にも事前に周知する必要がある。
- 委員： 今回の実証実験期間について、約3か月は短すぎる。他自治体では、実証実験を半年ほどしているところもある。また、利用者には利用者の生活リズムがあり、急には変えられない。片道運賃300円を負担して乗るという意欲も湧いてこない。さらに、田無駅から田無庁舎まで歩かないと乗車できないことが不便であった。
- 事務局： 今回の実験期間中の8月から利用対象者を変更する際に、対象地域の全域に周知を行ったが、伝わっていなかった経緯があることから周知方法については、再度考える必要がある。実験の結果を受け止め、来年度以降も地域の皆様にご協力いただきながら、新たな方策について検討していきたい。
- 委員： 西武柳沢駅ルートは、ロータリー内に乗り場があり、かつ運賃もはなバスと同じ150円であったが、最も利用が少ないことから、地域が望んでいる

こととして、田無駅に行きたいということが、明白である。移動支援事業と田無駅に行きたいという点については、切り分けて考える必要がある。

○会 長： 他にご意見、ご質問はないか。他に無いようであれば、報告事項「移動支援の実証実験の結果報告と今後の対応について」は以上とする。

3その他

○会 長： 全体を通して他にご意見、ご質問はないか。他に無いようであれば、本日の議事は、以上である。事務局から他に何かあるか。

○事務局： 次回の会議は2月頃の開催を予定しており、日程は改めて調整させていただく。

○会 長： その他全体を通して、ご意見等ないか。特になければ以上をもって令和元年度 第3回西東京市地域公共交通会議を閉会する。

以上